

アトリエ 琉游舎 だより 95号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2020年12月30日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>



謹賀新年



★今年もみんなで作る琉游舎をよろしく願いたします

★引き続き読書会 詩話会 映画会 写経会、居酒屋の会をやっていきます

★皆さんのこんなことしたい あんなことやりたいがあったら

お知らせください 是非一緒にやっていきましょう

- ・写経会は毎月第一日曜日に行います。(1月は2週目です) 初めての方も写経に必要な道具一式ご用意しています。手ぶらでお越し下さい。手本をなぞる方法、経文を隣に置いて白紙で写経する方法など、お好みの方法で写経して下さい。文字に一心に向かい合っていると1時間という時間はあっという間です。
- ・読書会は法華経、歎異抄、般若心経、ダンマパダと、読んできました。次回から(1/26)「立正安国論」を読みます。日蓮聖人がこの書を書いた鎌倉時代は、今と似た状況でした、地震、噴火、疫病、台風、洪水と自然災害が頻発し、社会も人心も疲弊していた時代に彼は何を考え、どう行動したか。途中参加でも分からないということがないよう、今まで読んだところを再度復習をしながら毎回新しい章を詳しく読んでいきます。ゆっくり読みながらの雑談会のようなものです。テキスト資料をご用意してお待ちしています。
- ・詩話会は毎週第2土曜日に(1月は3週目です) 戸井みちおがセレクトした詩人の5作品ほどを読んで解説していきます。現代詩は難しいもの、自分には縁遠いと思われる方も一度覗いてみてください。
- ・映画会は昔の名画を上演しています。面白いです。懐かしいです。昔のスターはかっこよく美人です。
- ・居酒屋の会は毎月25日16時半からです。皆さんで飲み物食べ物を持ち寄っておしゃべりをする会です。初対面の方も食べて飲んで喋ればいつの間にか対話の輪が広がっていきます。

1・2月スケジュール

月 火 水			木	金	土	日
			31 映画会 お休み	1月1日 新年祝祷会 0:00	2	3
4	5	6	7 映画会 お休み	休 舎 し ま す		10 写経会 13時半
11	12 読書会 13時半	13	14 映画会 13:30	15	16 詩話会 13時半	17
18	19	20	21 映画会 13:30	22	23	24
25 居酒屋の会 16時半	26 読書会 13時半	27	28 映画会 13:30	29	30	31
2月1日	2	3	4 映画会 13:30	5	6	7 写経会 13時半

写経会
1月10日(日)
2月7日(日)
13時半から

読書会
1月12日(土)
1月26日(土)
13時半から

詩話会
1月16日(土)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

居酒屋の会
1月25日(月)
16時半から

この2ヶ月足らずの間に、会社時代の同僚2人から早期退職に関する相談や報告を受けました。定年まで2年を残して早期退職し今までと全く違う生活をはじめたこの私の、何が彼らの参考になると思ったのかは分かりませんが、元部下の営業部長は平日の朝、新型コロナで自宅リモート作業中の東京から車を飛ばして2時間半、はるばる琉游舎まで相談に訪れました。彼の競技ポーカーの腕は日本トップクラス。海外の大会にも赴いたことがある腕前です。的確な判断力と無鉄砲な度胸、明晰な分析力と根拠のない自信という能力が矛盾無く共存する勝負師。随分私の統括する部署の売りに貢献してくれました。そんな彼が稀に見る好条件の早期退職者優遇制度に応募するかどうか迷って私のところへ訪れたというわけです。もう一人の彼は3年後輩、中堅クリエイティブディレクターで活躍中。若い時はCMプランナーの同僚としてクライアントの困難な要望に応えるためによくスタジオで徹夜をし、私が営業に転じてからはプロデューサーとクリエイターという緊張関係の中で仕事をしてきた仲でした。その彼から先日、12月一杯で早期退職し、故郷の兵庫で親の面倒を見ながら家業の農家を継ぐとのこと、また合わせて中小企業診断士の資格を取得したので今までの経験を地元企業の支援に生かしたいとのメールがありました。過去の延長線上ではなく全く未知の世界の農業をゼロから始めながら、積み上げてきたノウハウも広く役立てたいという志は、形は違えども、私が会社生活で蓄積してきた経験知と仏教の教えの統合の試み、《助け合い組織「コーリーナシップ」と集いの場「琉游舎」》を始めるために、過去の絆を断って4年前コーリーナに居を構えたことと重なるものがありました。

2人とも仕事上の関係だけで退職後は音信不通だったため、突然の相談と報告に驚きました。もし私の今が、善し悪しは別にして何らかの参考になるのならばこれもまた私の日々の行いの一つです。私に出来ることは真摯に彼らの言葉に耳を傾け、ひたすらその声から観えてくるものを観るだけです。袋小路に入らない限り道は右も左もどちらに行っても正解のはず。例えば勝負師の彼の右に行った先は一匹狼の未踏の道が続き、左は定年までの安定した生活があります。彼の迷いは、今の安定が10年後の定年の先も死ぬまで続くのか、退屈ではないか、それを自分は望んでいるのか。ならば今会社が提示する好条件を受け入れて、勝負師の世界に打って出るか、ということです。彼の名誉のために付け加えると勝負師と言っても非合法の賭博の世界では決してありません。東京大学教育学部卒業の彼は公営ギャンブル、競技麻雀、ポーカーなどの合法的な勝負の世界で勝つためのノウハウを理論的に構築し文書やコンサルとして依頼主に提供していく仕事を考えているようでした。私への話の中で、進むべき左右の分岐点にさしかかるとどちらが正しい道なのかを幾度となく問われました。私はそちらは回り道になるのでは、こちらはまだ方向転換できる時が必ずあるよ、そこは行き止まりかもしれないね、と彼の声から私に観えてきた道の先を示すことだけで、どちらが正解だと答えることはできません。歩くのは私ではなく彼だからです。彼は3時間の話の末に、いずれ時が来るが今がその時ではないと判断し、会社に残ることを選びました。農業を選んだもう一人の彼は今がその時でした。その大きな分岐点での決断の先で、いずれまた小さな分かれ道に遭遇することでしょう。その時のために彼は私を同行の士とみて現況をメールしたに違いありません。直接の言葉や体験だけでなく、どこかで自分の行いを知っている人、観ている人がいる、そう思えるだけでその歩みは自身に満ちたものとなるでしょう。

もし私が彼らの歩みをどこかで観ている人であるとするならば、それはお釈迦様が私を通して彼らに眼差しを注いでいるからなのです。私が今をありのままに躊躇することなく歩むことができるのは、常にお釈迦様が私の行いを観ていて下さるという確信があるからです。「アーナンダよ。注1今までも、私の死後も、あなたたちは自分を頼り、法を頼って生きていきなさい。他に寄りかかることなく自分と法とを頼りとして生きる者は、最高の境地にあるだろう。真理を学ぶ心があり修行を続ける者は、誰であってもこの境地に辿り着くのです」お釈迦様が亡くなる直前の最後の旅を書き綴った「大パリニッバーナ経」注2第2章の最後の言葉です。とても感動的な経典で私の大切な経のひとつです。「自分と法とを頼りとして生きる者」とは「自灯明」と「法灯明」の指し示すところに向かって自らの足で歩み続ける者のことです。法灯明はお釈迦様の教えであり私達の行いを観ていて下さる眼差し。自灯明はお釈迦様への信とありのままに観る日々が示す行いそのものです。この二つの灯明が私達を「安らぎのところ」へと導きます。お釈迦様の眼差しは勝負師の彼や農業を選んだ彼の言葉や行動を通して私にも注がれます。互いが語り合い行うとき、その眼差しは互いの言葉と行いを通して互いの歩む道に注がれるのです。これが自灯明と法灯明を頼りに生きることなのです。

冬の朝五時頃北の空を見上げると、視線の先に柄杓の形をした北斗七星が輝き下に目を向けると北極星が不動の光を放っています。夜道や海道を進むとき北極星は無数の人たちの指針となります。北極星と私たちの互いの眼差しが出会ったとき、人は安心してその光に導かれるままに進むことが出来るのです。お釈迦様のまなざしに出会うことは北極星に出会うこと同様難しいことではありません。日々私たちが暮らす日常には絶え間なくお釈迦様のまなざしが誰にも平等に注がれています。ただ私たちはそれに気付いていないだけなのです。今日道端であいさつを交わした人も、電線で鳴くカラスも、コンビニのカウンターの人、今日もジャレついて飛び跳ねる犬も、皆その先にはお釈迦様の眼差しがあります。新たな年 琉游舎：戸井 出琉・恭子は昨年以上にその眼差しを全身に浴びることのできる豊かで安らかな日々 お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152を送りたいと願い誓い行っていきます。本年もよろしくお願ひいたします。矢板市大槻2319-17コーリーナ矢板C-850